



和 ～心をつなぐ～

令和7年1月27日
第7号

国際理解・国際貢献

今回はアフガニスタンで医師活動をした中村哲先生の話から国際貢献について考えてもらいました。

〔※ 裏面：放送内容〕

☆ 1年生 ☆

- 中村先生の人々を助けたいという強い思いが感じられた。中村先生のような強い思いをもって、行動をしていきたい。
- 世界にはどのような場所があり、どのような人がいるか知らなければいけないと思う。世界についてもっと知りたいと思った。
- 砂漠を10年間であそこまで緑豊かな場所に変えていたところが、すごいと思った。
- 自分のことだけでなく、他の人のために何かすることの大切さを改めて感じました。

☆ 2年生 ☆

- 砂漠を緑に変えることはできないと思っていたけれど、中村先生は緑を作ってすごいと思いました。人道支援をすることで、多くの人々の命や生活が守られ、安心して暮らせることが分かりました。
- 困っている人を助けたいという気持ちがあっても実際に行動するのは難しいのに、それをした中村先生はすごいと思った。
- 問題をひとりひとりが意識し解決しようとすることで、安心できる暮らしにつながると思った。
- 目の前の病気の患者を治すために、砂漠を自然の緑に変えてしまうという大規模で難しいことを成し遂げたことはとてもすごいと思った。

☆ 3年生 ☆

- どれだけ救いたいと願っていても行動しなければ意味はありません。中村先生の行動力と思いやりの心を見習わなければいけないと思いました。
- ひとりでも多くの人々が安心して暮らせるようになるためには、ひとりひとりが中村先生のように積極的な行動をしていかなければいけないと思います。私も積極的に行動ができるよう心がけたい。
- 困っている人がいたら、助ける行動をしていきたいと思います。
- 中村さんは病気の治療だけでなく、土地の整備まで行ったことには驚きました。
- 中村先生が亡くなられた後も皆で協力して、自分たちの生活を守っている。一人でも多くの人々が安心して暮らせるようになるためには、皆で協力して何かをすることは、大切だと思いました。
- 「用水路」をつくる工事をするようになったのが、すごいと思いました。

砂漠を緑にかえたお医者さん

病気になったとき病院がなかったらどうしますか？
水がないとあなたの生活はどうなりますか？

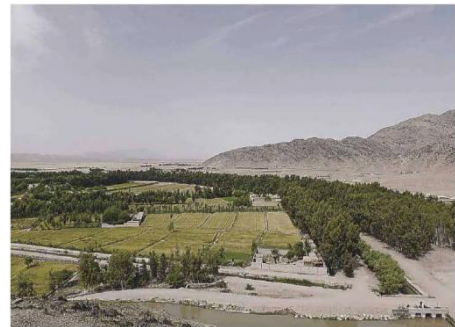
日本から遠く離れたアフガニスタンという国には、病院も水もない場所があります。福岡県で生まれ育った中村哲先生というお医者さんは、ここで暮らす人たちを助けるための仕事、人道支援をしてきました。



この国では戦いが続き、水も足りなくなりました。のどはからから、畑の野菜もかれて食べ物がなくなり、生きるのが大変でした。子どもも大人も体が弱って病気になり、次々と患者さんが病院にやってきました。

「病気を治す前に水がいる」

そう考えた中村先生は井戸を掘り、大きな川から村に水をひくための通り道「用水路」をつくる工事までするようになりました。そのおかげで草も生えない砂漠に水が流れ、小麦や野菜、くだものがとれるようになりました。人々は食べ物に困らなくなりました。



中村先生は砂漠を豊かな自然の緑にかえ、人々の命を助けたのです。

ところが2019年12月4日、ジャララバードというところで中村先生は銃で撃たれて亡くなりました。

日本人もアフガニスタン人もたくさんの方が泣きました。だからといって悲しんでばかりもいられません。アフガニスタンにはまだ水がないところがあります。先生の仲間たちは今も用水路の工事を続けています。畑で野菜を育て、はちみつ作りもしています。

たくさんの方が中村先生をお手本にしています。一人でも多くの方が安心して暮らせる世界になるように、それぞれが、それぞれの場所で自分にできることをがんばっています。

☆ 保護者の方からの感想 ☆ 12月「相互理解」

- 異なる意見が出たとき、まず否定せず相手の意見を聴くことで視野が広がる時があります。相互理解するうえで、大切なことは、相手に興味をもつこと、自分の意見を開示していくことが大切になります。そのためには、否定されない環境づくりが重要です。相互理解は友人関係、学校・職場など人との関りにおける基盤になります。今から意識しておくことで、今後の人生をより豊かなものにしてほしいです。
- 日本人は自分の意見をもっているのに遠慮したり、対立を避ける為に相手に伝えず自分の心にしまったままにしたりする傾向があります。自分の意見を相手に簡潔に分かりやすく伝えるコミュニケーション能力を身に付けることがこれから必要だと考えます。

(紙面の都合上、感想の一部のみ掲載しています。ご了承ください。)